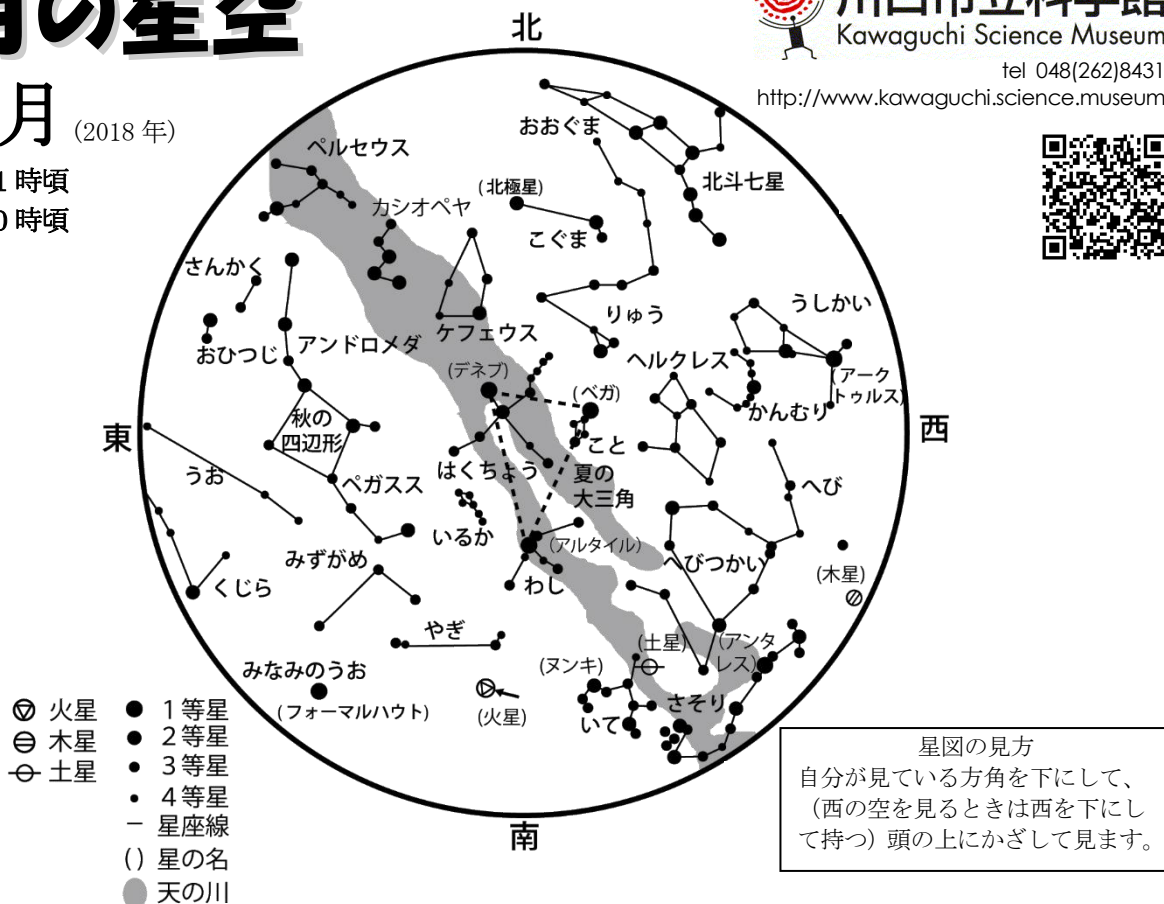


# 今月の星空

9月 (2018年)

上旬 21 時頃  
下旬 20 時頃



月 齢 ① 下弦 3 日、● 新月 10 日、● 上弦 17 日、○ 満月 25 日

惑星情報 火星 夜のはじめ頃 南 (やぎ座 -2 → -1 等級)  
木星 夜のはじめ頃 西※中旬まで (てんびん座 -2 等級)  
土星 夜のはじめ頃 南 → 南西 (いて座 0 等級)

## ★9月24日 中秋の名月

中秋の名月とは、旧暦8月15日に見える月のことで、十五夜とも呼ばれます。月の満ち欠けをもとに作られた旧暦では、新月の日を1日目としているため、15日には満月または満月に近い月となります。また、旧暦での秋は7月から9月で、8月15日はその真ん中(中秋)にあたります。ただし、この日が必ず満月となるわけではなく、今年は翌日の25日が満月です。これは、地球を回る月の軌道が楕円であり、新月から満月までの時間が一定ではないことなどが理由です。

24日は17時27分に月が東から昇るため、1時間ほど経った18時半ごろから見つけやすくなります。肉眼でも月の模様はわかりますが、望遠鏡を使えば、より詳しく観察できます。

### 満月頃の月の見どころ

光条(こうじょう) … クレーターから放射状に伸びる白い筋状の模様  
隕石の衝突でクレーターが形成された際に噴出物が飛び散ってできたもの。代表的なティコクレーターからは、約2,000km離れたところまで光条が伸びていることがわかります。その他、目立つ光条のあるクレーターはコペルニクス、ケプラーがあります。



図 クレーターと光条

## ★水に関係する星座

東の空には秋の星座が昇ってきていて、その先頭がやぎ座です。今年は明るい火星が近くにあり目印になります。やぎ座の姿は、ギリシャ神話に登場する羊飼いの神パーンで、体の半分は魚の姿で描かれています。やぎ座を含め、後に続く秋の星座の多くは水に関係しています。星座が作られたメソポタミア地方では、太陽がこれらの星座を通過する時期が雨季になっていたことに由来します。やぎ座の隣にあるいて座の「ヌンキ」という星は、「海の始まるしるし」という意味があり、ここから東側を海と見立てていたのでしょう。